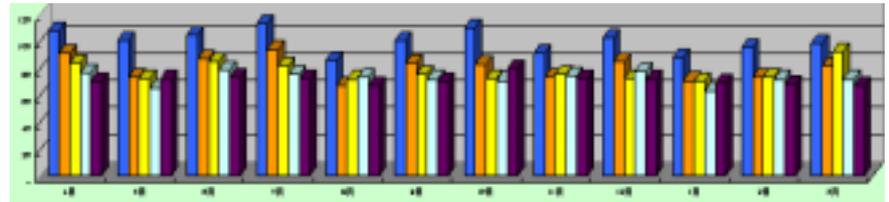


## 一般廃棄物が目標に復活しました

本年度から、環境目標に廃棄物削減が復活しました。一般廃棄物は、2008年当初、年間966袋もありましたが、昨年には855袋まで低減されました。右のグラフは、月別の廃棄物量を示した棒グラフで、青色が2008年、茶色線が2012年を示しています。



過去5年間の月別一般廃棄物排出量

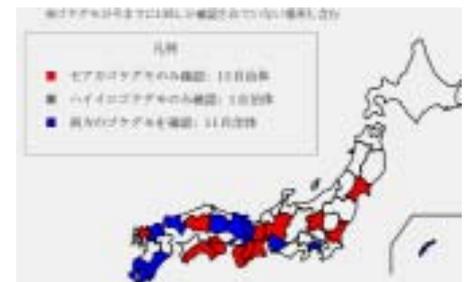
ここまで一般廃棄物が削減できた要因の一つとして、紙類分別徹底があると考えています。皆様のご協力により、特にダンボール関係の分別が進んでいますが、雑誌や広告などの分類が充分ではありません。こうした紙類は、カタログ等と同じ分類になります。近くにある、OA用紙回収BOXに入れるか、分別されたダンボールといっしょに廃棄して下さい。通常のごみ箱に入れてしまうと分別できなくなります。また、右の写真のように、紐で縛る必要はありません。ダンボールの中で、比較的しっかりした箱は、つぶさずに出してください。機械グループ等で再利用することがあります。また、ふた付きのダンボールはフタをしないで、そのまま出してください。整理する時、いちいちフタをあげなければなりません。これからもご協力よろしくお祈いします。



雑誌は縛らなくてOK

## 「セアカゴケグモ」が茨城県で確認されました

環境省の発表で、茨城県神栖市でセアカゴケグモが確認されと報道されました。これで、発見された地域は25自治体に達し(右図の色のついた地域がセアカゴケグモ、ハイイロゴケグモが発見され自治体)全国的な広がりをみせています。日本では1995年頃、大阪市で最初に発見されてから、わずか数年で西日本全域に拡大し、港や空港のある地域ばかりでなく、一般の住宅地域にも広がってしまいました。もともとは亜熱帯地域のオーストラリアが原産で、越冬できないものと思われていましたが、残念ながら日本の風土になじんでしまい宮城県のような、比較的寒冷な地域でも発見されてきています。セアカゴケグモの特徴は、何といっても背中にある大きな赤い模様があることで、毒をもっているのはメスだけで、体長は約1cm~2cmで小型のクモに分類されています。雨風があたらぬ、暖かい場所を好むようで、通風口の近くやエアコンと外壁との隙間や、花壇ブロックの穴の中などから多く発見されています。咬まれて死亡した例はありませんし、血清もありますのでパニックをおこさず、発見した場合は、素手などで触らず、自治体などに報告し、専門家に処分をお願いしましょう。



発見された自治体



セアカゴケグモ

### 環境コラム 「外来種法の現状と課題」

先月は「マダニ」、今月は「セアカゴケグモ」と有害生物の話題を掲載しました。国も外国から入ってくる外来生物を対象にした「外来生物等の生態系に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法)等を定め、対策にのり出してはいますが難しい状況です。実際にセアカゴケグモも一万匹以上駆除されていますが、ほとんど効果がなく、更に拡大しようとしています。こうした有害生物も問題ですが、最近、スーパーマーケットでヘラクレスオオカブトが売られているのを目にしました。子ども達の注目を集めていましたが、非常に危ういものを感じました。水戸市内の溜池にピラニアがいたと話題になりましたが、心無い飼い主が投棄したものとされます。万が一、ヘラクレスオオカブトが野に放たれ、その風土に適用してしまうと、昔から良くみていたカブトムシやクワガタムシは姿を消すのではないかとといった不安にかられます。外来生物の対象を更に広げ生態系を守る努力を市民レベルでする必要がでてきています。